

【講座2 真田 陽 氏】

□北見の市教研などで真田さんから直接お話しを聞いたり質問することができ、今回もお話しを聞くことができて良かったです。性の多様性について、インクルーシブとSDGsと関連させて授業に取り組んでいます。まだまだ改善していかなければなりません、少しずつレベルアップして、自分の納得がいく授業ができるように頑張ります。真田さん、頑張りますね。（なかなか職員全員がOKとなる授業が難しいです）

□大変わかりやすいお話をありがとうございました。

職場内には、SOGIに理解があり周りへの配慮もしてくれる先生もいれば、未だに「男の子なんだから泣かないの！」と平気でいう先生もいます。自分の周りにも当事者がいるので、そういった発言を聞くと「この子がそうだったらとても傷つくよなあ」と苦い思いになります。

だからこそ、養護教諭という立場を活かして、児童生徒・保護者はもちろん、教職員にも「こんな子がいるよ」ということを発信していかなければならないなと感じました。今回の資料も、職場の先生方に目を通してもらおうと思います。

□カミングアウトをして、いじめに遇い、自死を選んでしまった知人がいます。この悲劇を二度と起こさないように、「多様な性について」微力ながら、生徒に伝えたいと思っています。真田先生から学ばせて頂いたことを参考にしたいと思います。ありがとうございました。

□LGBTQについては何度も講演を聞いたり、情報収集して勉強していますが、今回の講演でもまた新たな発見がありました。特に、SOGIについては分かっていたつもりでまだ理解が深まっていなかった部分があることに気づくことができました。また、LGBTQの現状について、7割が中学生までに自覚していることに驚きました。もしカミングアウトを受けたら、今のままでは受け止めて適切に対応できるか心配です。より勉強を積み重ねて、困難を抱える生徒に寄り添った対応を心がけたいです。

□ニーズにあわせた取組を集団の中で考えるときまだまだ、私の中では、難しいと感じることが多く、今日のお話を聞いて、もっと柔軟に、子どもの求めているものに答えていける力量を付けなければと思いました。ありがとうございました。

□大変貴重なお話ありがとうございました。養護教諭として性教育に関わることがあるので、多様性についてふれることの大切さと宿泊や修学旅行での男性のお風呂についても、配慮が足りなかったことを反省しました。自分なりにできることを取り組んでいきたいです。

□本日は学ぶことの多いお話をしていただき、ありがとうございました。実は真田先生の講義は以前もお聞きしたことがあったのですが、最近LGBTQに関する相談を生徒から受けたことがあったので、どう対応したら良いかなど今の私にタイムリーな内容で非常に参考になりました。本校も名簿の男女をなくしたり、制服や髪型の工夫など少しずつ取り組んでいる部分はありますが、まだまだハード面・ソフト面ともにみんなが過ごしやすい学校にはなっていないと思います。マイノリティな人たちだけを取り上げた対応ではなく、すべての人が、ありのままの自分で安心して過ごせるような学校や社会に近づくにはどうしたら良いか、私も微力ながら考え、行動していきたいです。

□恥ずかしながら SOGI という言葉について初めて耳にしました。LGBTQ という言葉は世間に浸透したけれど、マイノリティの人だけに目を向けるのではなく、誰もがセクシュアリティを持つ当事者であるという考え方を持っていて話していくことが大事だということをお話いただき、大変勉強になりました。今まで性教育のなかで話題にしたりといったことしかできていなかったけれど、レインボーフラッグを保健室に掲示したり、宿泊行事の入浴の際に、例えば生理が来ていなくても、男子であっても、個別の場所や時間を設定したりすることは、すぐにでも出来ることかなと思ったので、実践してみたいと思いました。またカミングアウトしてくれた子への対応についてのお話のなかで、その子のセクシュアリティを決めつけるのは、その子自身を縛り付けてしまうことであり、ニーズを狭めてしまうことにつながるのだから、決してしてはいけないとお聞きし、ついやってしまいがちだと感じたので、肝に銘じておきたいと思いました。

□多様な性を前提とした学校づくりの視点から、今の学校環境を振り返ることができました。誰にとっても選択肢があることは大事だと実感しました。以前直接お話を聞いたことがあり、またお会いしたいと思っていたので、会場開催できず残念ですが、今回の講座動画を見ることができ良かったです。ありがとうございました。

□真田さんのお話は大変わかりやすく、理解が深まりました。まずは自分自身の意識を振り返り、個人でできることを少しずつ始めようと思えました。そして、少しずつでも学校全体に広がっていき、すべての子どもたちがその子らしく過ごせる学校になっていくことが必要ですね。講座を聞いてとても良かったです。

□今日拝聴したお話は、勤務校すべての教職員に聞いてほしいと思いました。とても勉強になりました。ある程度わかっていたつもりではありましたが、セクシュアリティを自覚するきっかけや、ロールモデルになるには、カミングアウトしてくれた時、その人の振る舞いで困惑したときなどのエピソードや対応法が具体的で、抽斗が増えた気持ちです。身近にいるという例で、左利きや AB 型の人と同じくらいの割合というより、日本の苗字トップ 4「佐藤鈴木田中高橋」を合わせたくらい、これまで出会ったことがあるはず、友達・知り合いにもいるはず、というイメージがしっくりきました。保健室で日常的に、相談されると「何かしなきゃ！」と感じがちでしたが、まずはじっくり耳を傾け話を聞き止める、ニーズを把握するという傾聴の大切さをあらためて考えさせられました。年を重ねるごとに「べき」が強くなっているのだから、多様性を知り、柔軟さを身につけたいと思います。ありがとうございました。

□多様な性について、専門的な情報の他、教員の立場から現場でできることは何かというお話を伺って良かったです。

□多様な性やその支援について本当によくわかりました。何より真田先生のお話がとてもわかりやすいことに「お若いのに優秀な先生だな」と教師として尊敬の念を抱きました。誰でも生きていきやすい社会を実現するために、子ども達の良いロールモデルとして存在できるよう、学んだり工夫したりしていきたいと思いました。本当にありがとうございました。

□子どもに寄り添える養護教諭でありたいと思っています。先生のお話を糧に頑張ります！

□真田先生のお話を聞いて、私自身も性に違和感を感じていたのだから心が少しスッキリしました。自分でできる活動を、そしてこれからも子どもたちにも多様な生き方があるんだよとサポートしていこうと改めて思いました。ありがとうございました。

□20年ほど前、自分の性に違和感を感じていた生徒と関わりがありました。その時に保健室来室記録の男女の欄をなくしたことや、修学旅行で私と同室で（具合が悪いという程で）過ごしたことも思い出しました。勉強不足ではありましたが、前任校での性の学習で性の多様性の内容にも触れるようにしました。授業後に相談に来た生徒もいました。どちらの生徒も悩みは本当に深刻だったと思います。相談を受け大きく動いた訳ではありませんが、信頼できる先生方と相談し、話を聞き見守りながら過ごしていた日々でした。現在校では相談等はありませんが、性の学習は行わせてもらっています。まだまだ、勉強不足で授業の内容に悩む日々だったので本当に参考になりました。本校では、名簿は五十音順、昨年度から検診も、身体測定（身長、体重）、内科検診、心電図検査、以外は男女を分けずに行うことにしました。多分、先生のお話を聴くのは3度目となると思います。毎回、学びがあり、頑張ろうという自分の気持ちのモチベーションをあげて頂いています。自分にできる事を少しでもしていこうと思います。またいつかお話を聞けるといいなと思います。本当にありがとうございました。

□ LGBTについては、学習する機会が増えてきました。私達すべてが当事者なんだという意識を持つことの重要性について考えさせられました。学校にはいない存在として進められる教育活動。不登校や自傷行為を行う児童生徒の中に LGBT の問題が潜んでいる可能生はあるんだろうなと想像してみることも必要だと思いました。決めつけたりできないしカミングアウトできる体制がないなど問題はたくさんありますが、にじらず札幌や虹色トークトークなど集えたり、相談する場があることを伝えていきたいと思います。

□素晴らしい講演でした。子どもたちの取り巻く環境の大変さ、生きにくさを痛感しましたし、支援のあり方を具体的に示していただき参考になりました。自分の考え方の偏りにも気づくことが出来ました。例えば人はみんな恋愛感情を持っているものとか異性間恋愛でなければ抵抗を感じてしまっているなどです。一人ひとりが生きたいように生きられるって LGBT に関わらず、すべての人たちにとって大切なことだと学びました。資料もお話もとてもわかりやすかったです。ありがとうございました。養護教諭だけでなく全ての教員に学んでほしい内容でした。

□制服変更の取組が始まっており、今回の講義内容をまとめて、教職員のみなさんへ情報提供しようと思っています。長年の考え方を替えなければいけない方々にとっては簡単な問題ではないからこそ、繰り返し取り組んでいくことが重要なのかな、と思いました。ありがとうございました。

□途中ドキッとしながら聴かせていただきました。身についてしまった思い込みから、もしかしたら子どもを傷つけてしまう言動をしていたかもしれません。どんなことも当たり前と思わず、見直していく必要があると改めて思いました。まずは、女子への配慮に偏りがちな健康診断や宿泊行事のお風呂事情について、全ての子ども選択肢が広がるよう考えていこうと思います。ありがとうございました。

□ご講演いただきありがとうございました。先生のお話を聞くのは3回目でしたが、優しい語り口に毎回心が温かくなります。社会全体に性的マイノリティの存在が認識され、少しずつ変わってきているとは思いますが、まだまだ既存の「男女」に分けて考えられている場面も多いです。まずは、自分自身が「ひとり一人ちがう」ということを意識していきたいと思います。そうすることで、子どもたちにも伝えていきたいです。

□性的マイノリティを抱える高校生の不登校が5人に1人という数字であること、またその理由がいじめの他にもトイレや着替えなど自分の望むスペースを使えないなどのカミングアウトができないことによる苦痛もあることを知ることができました。

前期にはLGBTQ+に関する掲示物作り、生徒だけではなく先生方にも興味を示していただくことができました。掲示していた期間に生徒がカミングアウトしてくれることもありとても有効でしたが、剥がしてしまったあとの「いつでも話を聞くよ」の姿勢が示せてなかったな、と感じます。レインボーグッズを少し掲示するだけでも当事者の不安を減らすことができるのであれば、早速掲示をしようと思いました。また、不要な男女区別について考えてみると、健康診断時の順番には不要な区別がまだあるな、と気がつくことができました。男女平等に、と声を上げる前に自分が変えられる部分から取り組んでいこうと思います。

□LGBT+Qについて、理解している・知っているつもりでいましたが、自分が保健室で子どもたちに向かって何気に「好きな人はいるの？」と話しかけていることも不快に感じている子どもがいるかもしれない・・・そこまで考えたことはありませんでした。反省しています。本校は今年から校舎の改修が始まります。まだ間に合うなら、今から多目的トイレを要望しようと思いました。 ご講演ありがとうございました。

□だれもがすごしやすい学校をつくっていく一員として、理解を深めつつ、相談しやすい環境づくりもさらにしていきたいと思う。

□私が子どもだった頃と同級生にも、教員として関わった生徒にも、性的マイノリティと呼ばれる人たちがいました。カミングアウトしてくれた子も、カミングアウトはしていなかったけれど周りから「トランスジェンダーかな？」と思われていた子もいたのですが、私の関わり方は間違っていなかったかな、もっと寄り添ってあげられなかったのかな…と反省しながらお話を伺っておりました。真田先生のお話聞いて、学校でできることや家庭でできることについて、いろいろ考えることが出来ました。性別に関わらず、どんなSOGIの人も安心して快適に生活できるように、こころがけていこうと思いました。ありがとうございました。

□お話しいただきありがとうございました。性の多様性についてとても丁寧に説明していただき、とてもわかりやすかったです。自分自身まだまだできていない人間ですが、子どもたちとていねいに向き合っていこうと思います。

□実際に、養護教諭として必要な情報がたくさんあり、勉強になりました。これからは、もっと身近に触れることになる分野だと思います。一般の先生方にも知って欲しい内容でした。

□思春期の心の変化で「異性への関心が高まる」というような表現を目にしたことがあります。異性愛を前提とした考えだと思いました。恋愛をしてもしなくてもいい、性的指向や性自認に違いがあることは自然なことで、人として対等に関わっていける社会が望ましいと改めて感じました。私自身、今までの他者との関わりを振り返ると、配慮が足りない言動があったと反省するところがあります。様々な価値観や考え方を含め、その人自身を認め寄り添えるよう、誠実に関わっていきたいと思いました。また、「多様な性を前提とした学校づくり」を進めることは、どの子にとってもメリットがあると思います。子どもたちが安心して過ごせる学校になるよう、少しずつでも学校を変えていきたいです。 貴重なお話をありがとうございました。

□多様な性の当事者にはニーズに合わせて一緒に考えていくことや、選択肢を多くすること、決めつけないことが大切なんだなと思いました。小学校の初経指導でナプキンを配りますが、トランスジェンダと思われる子が「ナプキンいらない」と言ったことがあり、今考えるとそうだよなあと納得します。相手に合わせてというのが大切ですね。

□当事者の方だからこそ、こういった形で多様性が当たり前になる環境を整えていけばいいのか知ることができました。お恥ずかしいですが、セクシュアリティの意味もよくわかっていませんでしたが、今回の真田先生から、決めても決めなくてもいいものであるという言葉が印象に残りました。ありがとうございました。

□まずは、大変勉強になりました。困っている子どもをわかってあげたい、特別な人なんていなくて、みんな同じであると頭でわかっているのですが、完璧な言動ができるのか自信ありません。しかし、できることから始めてみようと思います。困っている子が気軽に話せる環境づくりにもさらに工夫をしていきたいと思いました。

□真田先生ありがとうございます。大変興味深く講演を聴くことができました。みんなが自分らしく生きていけるように、養護教諭として関わっていけるといいなあと思っていました。

□多様な性についての講演機会が増えていますが、同じ市の教員の方で当事者の方のお話をお聞きする機会はなかなかないため、大変貴重な経験となりました。多様な性については、最近では単語だけが先走りしていたり、宙に浮いている状態だと感じていました。今回の講演で実際当事者はそのような単語についてどのように感じ、そのような違和感や現実的な問題を抱えているのかを知ることができ大変勉強になりました。また、カミングアウトのときの対応については、具体的な対応順序や、やってはいけないこと等も教えていただき、先生方にも発信しやすい内容で大変勉強になりました。貴重なご講演ありがとうございました。

□以前より、性の多様性には関心があり、個人的に書籍などを読んだりしていましたが、実際にお話を伺った経験がなかったので、今回お聞きすることができてとても勉強になりました。

性の多様性によって子どもたちが思い悩み、様々なつらい経験をしている実態があると知り、自分自身も日常の発言や保健室経営で無意識に子どもたちを傷つけていないか、もう一度振り返りたいと思います。

再度学習を深め、すべてのセクシュアリティを持つ子どもたちの「アライ」でいられる養護教諭になろうと思いました。貴重なお話をお聞かせくださり、大変ありがとうございました。

□講座で学んだ内容を他の教職員にも発信して、学校全体で意識・行動が変わっていくように努めたいと思います。参考資料の図書も非常に参考になりました。

□今回のお話の中で、一番参考になった部分は、子どもたちへの支援のあり方のところである。日々の保健室対応の中で、1年に1名以上は対応することが続いている。そのとき、何をしたらいいのか、学校としてはどういう体制を整えたらいいのか、いつも悩むが、今回お話いただいた内容や質問への回答が非常に具体的でわかりやすく、今までの対応が間違っていなかったこともわかって安心した。今後も子どもから相談してもらいやすい環境を整え、話してもらったときには、本人としっかり話をしながら対応を考えていきたい。

□保健室に訪れる子の中にはLGBTQに関わらず、何らかの生きにくさを感じている子がいるかも知れないということ念頭に置きながら、一人一人と丁寧に関わっていきたいなと思いました。もしもの時に頼れるような、話ができなくとも存在するだけで安心感を持ってもらえるような養護教諭を目指したいです。

□お忙しい中、貴重な講義をありがとうございました。現代では、性の多様性・LGBTQについてメディアで目にする事が多くなっています。養護教諭としてできることは何か、改めて考えて学びを深めたいと思いました。そして、「誰もが生きやすい社会をつくる」を心に留めながら、養護教諭としてできる支援に努めていきたいです。

□当事者の方の生の声を聞くことができ、大変勉強になりました。この問題に限ったことではありませんが、知らず知らずのうちに人を傷つける言葉を発しているかもしれないと身の引き締まる思いでした。

トイレ・着替え・入浴の個別対応ですが、理由の如何を問わずに対応するのはニーズとしては多くあると予想します。時間的に制約がある中でこういった対応をするのは限界があると感じました。計画段階で準備等に時間をさくことも検討すべきなのかもしれません。

大人ですが、案外子どもも固定概念に縛られていると感じることがあります。性だけでなく、もっといろいろな面で多様な選択・考えを提示し、新しい社会を作る子どもたちを育てていきたいと思えます。

□とってもわかりやすいお話で、理解しやすかったです。私だけでなく校内のたくさんの先生に聞いて欲しいお話だと思います。まずは自分に出来ることをコツコツとやってみようと感じました。学校の先生の一言ってとても大きいですね。肝に命じて生徒と関わっていきたいです。一人でも理解者が増える学校、社会を目指したいです。

□講演を聞いて、誰もが幸せに安心して過ごせる環境で生活できたらと思いました。子どもの話を聞き、気持ち、存在を尊重しながら、関わっていけたらと思っています。確かに子どもは私たち大人をよく見ているので、日常の関わりで「大切な存在」だということを伝えていきたいと思いました。質問、1つ1つにも丁寧に答えていただき、とても勉強になりました」。ありがとうございました。

□今まで児童生徒に相談されることがなかったですが、数値をみて3～8%もLGBTQがいることを知り驚いています。また、約7割が小学校低学年で性別に違和感を持つことを知ることができました。昔は黒と赤しかなかったランドセルも多くの色があるため、自分の好きな色を持っている児童をみるが多くなりました。講演を聞き、児童生徒に相談されたときは慎重に物事を進めていきたいと思いました。

□今までにも研修を何度か受けて、当事者への対応を経験したことにより、自分自身は少しずつ性の多様性について意識できるようになったのですが、学校づくりの面ではまだまだ課題が多いと感じています。特にソフト面で、教職員間の意識に差があったり、子どもたちの中には差別的な発言を面白がっている子もいます。真田先生のお話で学んだことを生かし、教職員間や子どもたちとの会話の中で話題にしていけたらと思います。ありがとうございました。

□貴重なお話をありがとうございました。マイノリティの児童生徒にかぎらず、まずは頼りにされる、ホッとする保健室。そして相談された時は「してほしいこと」と「してほしくないこと」をしっかりと聞き取ることを忘れずに仕事をしたいです。他のマイノリティの方のお話も何度か聞きましたが、教員の真田先生のお話してから、学校の支援のあり方がより具体的なお話となり、とても良かったと感じました。

□校内には性的マイノリティの生徒が必ずいるというのは理解していますが、なかなかどのような取り組みから始めたらいいかいつも悩んでいます。なぜかというと、養護教諭はこのような機会での性的マイノリティについて学ぶことができますが、養護教諭以外の教職員の皆さんは、なかなか身近にLGBTQ等について触れる機会がないのが現状です。教師の中には、何気なく「男らしさ」「女らしさ」を言葉にしている人もいますし、私自身気をつけていても、「〇〇くん」と生徒を呼んでしまうことがあり、そのたびに反省しています。学校という環境を含め、社会全体が男女分けする風潮があるので、少しずつしか進まないかもしれませんが、周囲の大人の意識を変えられるように、教職員向けに今日学んだことをお便りにして配布するなど、私にできることから

始めてみようと思います。また、子どもたち一人ひとりのセクシュアリティを尊重し、「その子らしく生きることのできる学校」になるようにしていきたいです。

□自分の中では理解しているつもりでいましたが、まだまだ理解が不足していたことを痛感しました。今後さらに学んでいきたいと思いました。ありがとうございました。

□TVやYouTubeで芸能人やインフルエンサーがカミングアウトをすることが多くなったことから、子どもたちのLGBTQへの認識に変化があるように感じます。それに伴って子どもからカミングアウトをされることも増えました。勤務校の現状を振り返ると、ハード面から変更できることがまだまだあると感じました。名簿や列の不要な男女分けはなくなったけれど、トイレや更衣室まで配慮をすることができていなかったと思います。今の設備で最大限の配慮を行えるようにすぐに変えたいと思います。また、ソフト面の改善は大いにできると感じました。校長から「失礼ですが、彼氏はいますか？結婚の予定は？」と問われたことがあります。校長先生が差別的に質問してきたとは思いません。おそらく人生設計を確認する意図として質問してきたのだと理解しています。でも枕詞があったにしても、これがまさに、異性愛前提の発言にあたるのだと講演を聞いて感じました。聞かれたときはこの発言に異性愛が前提としていると考えもしませんでした。講演を聞いて、子どもたちはもちろん、私自身を含めて先生方の意識変容と学びを深めていく必要があると思いました。何気ない発言や態度によって知らない間に深く傷つけてしまっていた人がいたかもしれないと反省もしました。また、先日にじーずからリーフレットを学校に送っていただきました。先生方に配布し、残りは保健室に置かせていただき、子どもたちも興味があるのか真剣に読んでいる姿を見受けました。先生方や子どもたちとの会話のきっかけとなりました。こうして学び考え、話題にしてみることがLGBTQ理解の第一歩なのかもしれません。子どもとも何かの折に、話題にしてみたいと思います。当事者である先生の講演を受けることが出来て良かったと感じています。ありがとうございました。

□当事者が抱える困難や学校での様々な問題、実際の対応について大変勉強になりました。子どものニーズや感覚を大切に、一緒に考えていける養護教諭でありたいと思いました。まずは周囲へのアプローチとして、校内の職員研修で情報発信していきたいと思います。子どもの拠り所になれるよう、頑張ります。ありがとうございました。

□多様な性については、札幌市の中学校学校保健の研究でも今年度、来年度の研究テーマとしているため、色々な取り組みについて学んではいますが、本校としては取り組みが進んでいないのが現状です。講演の最後の方でお話いただいた、「LGBTの子どもたちは将来自分で選択し、決定しないといけない場面が多くあるから、ニーズに合わせて多様な選択肢を提示し、生徒と一緒に考え選択していくことが大切」ということがすごくしっくりきました。実際に本校の生徒にも性について悩んでいる生徒がおり、にじーずを紹介したところ、にじーずに参加し、自分の気持ちを話せて良かったという生徒がいました。現在は色々な相談機関もある時代なので、私自身も知識を増やし、より多くの選択肢を提示できるようになりたいと思います。お忙しい中ご講演ありがとうございました。

□セクシュアリティには少数の人だけ名前がついているものだと思っていましたが、多数の人にもシスジェンダーやヘテロセクシュアルなど名前があるということを知りました。小数や多数とか関係ないんだと感じました。いじめや不登校なども起こりやすいと知ったので、いじめや不登校などあった時には性に関しても考えられるようにしていきたいと思いました。カミングアウトをしやすいようにするためにレインボーグッズ

を身に着けてみようと思いました。また、カミングアウトを受けた時には、話を聴いて一緒になって考えていけるような養護教諭になりたいと思いました。

□たくさんのお気づきがありました。不登校の児童も、もしかすると自分自身の性について悩みを抱え、それをどう言葉にしてよいかわからないのかもしれないと、視点が広がる思いを持ってました。だれもが自分を肯定できるためには、性の多様性があたりまえになるよう環境づくりや発信をもっとしていかななくてはと自らをふり返えることができました。

□別の学校で当事者の生徒が着替えのために週1回、保健室に来ていたことがありました。学校ではトイレに行かない生活が続いていて、本人は「慣れちゃった」と話していましたが、「自分だけ職員トイレ」というのが嫌だったのだと思います。職員トイレも男女に分かれています。やはり男女別に問題があるようにも感じます。できることはないか、考える良い機会になりました。ありがとうございました。

□貴重な講演をありがとうございました。当事者として自ら発信・活動を形にされていること、先生の行動力に感銘を受けました。「当事者」という言い方をしましたが、先生のお話から、当事者は全員であり、みんなが考えることだと学びました。カミングアウトされたことがあります。その方は教員でしたが「特に何もしていい。養護教諭だから伝えた。」と言っていました。何かあれば相談してと伝え、言葉どおり何もしてませんでした。やはり、養護教諭だからとあえて伝えておく、と言う方もいるかもしれません。カミングアウトされる日が突然訪れる時に、慌てないためにもとても貴重な講演でした。ありがとうございました。（匿名・匿名地域なので経験談を記入しました。）

□校内でできることを一つずつ進めている現状です。参考になる貴重なお話をありがとうございました。多様な性については、時代が変化しつつあり、理解が進んできてはいますが、日本はまだまだですね。そのような中で、保健室で性自認や性指向の話をしてくれる生徒たちは大人たちよりもずっと柔軟で、そんな生徒たちがさらに時代を進めていってくれるんだろうなという期待もあります。保健室を信じて、相談してくれる生徒たちがいます。これからも温かく受け止め、無知の姿勢で謙虚に寄り添い、一人ひとり丁寧に関わっていきます。

□真田先生のご講演をお聞きして、様々なセクシュアリティについて学びを深めることができました。それと同時に、「SOGI」という単語も初めて知り、性の多様性という部分で自身の知識不足を痛感しました。

特に印象深かった内容として、世間一般的に普通といわれている人も、シスジェンダー・ヘテロセクシュアルという分類分けができるということです。性の多様性と聞くと、どうしても性的少数者のことと思いがちで、自分自身が当事者であるという認識は未だ社会には浸透していないと感じます。真田先生がおっしゃっていたように、多数・少数の違いはあれど、幸せの形や生き方に優劣は無いのだと、強く思われました。

子どもたちが自身のセクシュアリティを自覚する時期として、7割が中学生までに、トランスジェンダーの場合7割が小学校低学年までに自覚をすることから、学校全体としての支援のあり方や、教職員の共通意識を高めることなど、出来る限りの対応をしていく必要があると感じました。養護教諭の立場として、健康診断の順番や時間の調整、宿泊を伴う際の配慮など、出来ることは沢山あると思うので、子どもたちの思いを1番に考え、そのニーズに応えていけたらと思います。

私自身、兄妹にLGBTQの当事者がいるので、真田先生の講演内容はとても身近に感じました。いまだに日本では、異性愛が普通だという考え方があり、生きづらさを抱えて生きている人も多いと思いますが、これからは誰もが胸を張って生きていける社会になっていくことを祈り、そのお手伝いを少しでもできればいいなと思い

ます。真田先生のご講演を聞き、私自身も私の兄妹も何も間違っていないのだと受け入れてもらえたようで、本当に嬉しい気持ちになりました。お忙しい中、ご講演いただき本当にありがとうございました。

□当事者ならではのお話を聞くことができ、大変勉強になりました。今の子どもたちが大人になる頃、多様性についてどのような社会になっているのか、多様性を受け入れる、というか特に意識せず当たり前のことになっていくような社会に早くなれば良いと思いました。

□多様な性を理解する学校や社会をつくるためには、誰もが性自認や性的指向をもつ性の当事者であるというSOGIの視点が必要であることを学びました。多数派が少数派のことを理解するという考えではなく、一人ひとりちがう多様な性があることは当たり前であり、いろいろな生き方が選択できる社会でなくてはいけないこと、性の多様性を理解し尊重できる環境づくりのために、まずはできることから見える化していきたいと思いました。当事者として、教員として、そして支援者としての立場からのお話は大変説得力があり、具体的な取り組みについてわかりやすく学ぶことができました。ありがとうございました。

□どんな生徒でも過ごしやすい学校づくりは、ちょっとした工夫と少し意識を変えるだけでも、大きく変えていけることを学びました。また、クラスに1~2人ぐらいの割合でいると学び、とても身近なことなのだと意識が変わりました。まずは、保健室が安心してお話できる場所になれるよう、明日から自分の行動をより意識して頑張りたいと思います。今回は、とても貴重なお話をありがとうございました。

□これからの社会（学校生活の中）で必ず対応していかなければならない重要課題だと思います。真田先生から多くのヒントをいただきましたので、できることから取り組みをすすめ、私たちがロールモデルになっていけたらと思いました。貴重なお話をありがとうございました。

□本日は貴重なご講演、ありがとうございました。LGBTQについては、生徒によって感じる事が一人一人様々だと、日頃から感じています。コロナ禍になってからは、洗濯のしやすさや着替えの密回避の理由からジャージ登校が基本ですが、近々制服に戻る動きがあります。約3年ぶり制服に切り替わるタイミングで、おそらくズボン・スカートの話になりますので、今回の講演を参考にさせていただきます。ありがとうございました。

□ 真田先生のご講演をお聞きして、LGBTQの子どもたちへの支援を考えるとどのようなことが大切なのかを改めて、学ばせていただきました。保健室で、子どもたちと関わる中で、実際にそのような相談を受けたことも何度かあり、それぞれが抱えている悩みや困難は一人一人違い、支援についても一人一人のニーズに合わせて何ができるのかを考えていくことの大切さを実感しています。多様な選択肢が子どもたちの未来の可能性につながるということを忘れずに、丁寧な関わりに努めていきたいと思います。また、校内でも多様性を前提とした学校づくりについて教職員間でも話題にし、考えられる機会をもてるよう、働きかけていきたいと思います。ありがとうございました。

□宿泊行事のときに、お風呂に入らない児童の確認は、女子のみに月経のある子を確認するなど、全員への配慮が足りていなかったと反省しています。LGBTQの方へ特別に配慮するというわけではなく、さまざまな困り感を抱えている子一人ひとりのためにできる配慮を考えていくことが、LGBTQで困り感を抱えている子どもを助けることになると思うので、日常化している一つひとつを見つめ直してみたいと思います。

□LGBTQの方がどれくらいいるのか、年代別に教えていただき、ありがとうございました。また、いじめ被害も出していただき、もっと寄り添えたらと思いました。相談に来てくれる数と統計の数では離れすぎていました。ちょうど、講演を視聴させていただいたあとに北海道LGBTQネットワークから冊子やカードが届いたので、関連の教員やカードは生徒が自由に持っていけるよう誰でも見られる掲示及び誰でも持っていけるパンフレットが置いてある場所に置かせていただきました。

□LGBTQについての勉強はしてきていますが、実際に自分の学校でどんなことができるのだろうかということが一番不安です。多様な性を前提とした学校づくりの視点で、ソフト面については教職員の意識・行動が追い付いていないなと感じています。先生方の中には自分で気づかずに発している人もいるのだろうなと感じます。そんなときには自分から行動して、男女別の概念やジェンダー規範などについて投げかけていきたいと思いました。

□セクシュアリティに関するお話はいろいろな講師の方から何度か聞いています。特に学校における日常生活において困っている人はトランスジェンダーの方なのかなと思っています。本当は、そういう子どもがカミングアウトしてくれて初めてその子の困り感に寄り添って動くというよりもそういう子どもがいる大前提で、学校の施設やきまりなども変えていけるのが理想だと思いますが、現状いまの私にできることは、もしも勇気を出して私に相談してくれた生徒がいたら、勝手にこうした方がよいのではないかと決めつけて、気を回しすぎるのではなく、今一体どういうことに困っていて、どういう風に変えていければよいのかということを生徒と相談しながら支援していけたらと考えています。どんなセクシュアリティでも、その人が嫌がることをやめて、望むことをしてあげるとするのはごくごく当たり前のことです。

□本校では、小学校4年生から、多様な性に関する授業を行っています。そのきっかけになったのは、本校のLGBTQの子どもたちが「自分について知ってほしい」と声を上げたことでした。クラスに数人は「自分の性が分からない」と答える子がいます。レインボーフラッグを掲げ、窓を開いているつもりではありますが、私の知らないところで多くの子が悩み、誰にも相談できないでいるのだろうと思うととても辛く感じました。4年生からでは遅いのかもしれないと思いました。小学生から自覚している子が多いとのことで、低学年から絵本等を使いながら指導していく必要があると感じました。指導といっても、知識の詰め込みではなく、「みんなちがっていいんだ」「好きなことは好きって言っていいんだよ」「間違えなんてない」ということを伝えていきたいと考えます。

□悩んでいる子どもがいるという前提で、自分の言動を含め校内体制を確認してみようと思いました。

□理解したいという思いは強いのですが、今まで性の多様性や現状についてなかなか整理できず理解が難しかったのですが、今回とてもスッキリわかりやすく優しく語りかける真田先生の講演はすっと頭に入ってきました。性に関する教育の指導を各学年に行っているのですが、高学年に性の多様性についての内容を取り上げたいと考えています。今回教えていただいた内容や具体的な数字などを指導の中で取り上げ、みんな多様な性の中の1人、LGBTQの方は必ず出会っている（明らかな判断材料はないが）を伝えていきたいです。いつか指導の中で真田先生の講演を子どもたちに聞かせたいと思いました。そのような願いは難しいのでしょうか？にじず札幌さんにも問い合わせてみたいと思っています。先生のお話を聞くことができれば、子どもたちはさらに身近に感じることはできるのではと思いました。素敵な講演、本当にありがとうございました。

□私の過去の勤務先に当事者の方がいたことが、それぞれ異なる職場でしたが2度ほどありました。一人の方はゲイの方でしたが（自分は男性が好きだと、結構あっけらかんと周りに表明していた方でした）とても人間のできていて、先輩としてとても大好きで尊敬できる方でした。

もう一人の方は女性の方で、飲みの席でトイレ内で二人だけになったときに、突然でしたが「実は、私はレズビアン。もう異動になるから、その前に養護教諭であるあなたには打ち明けておきたかった」と言って、たぶんかなり勇気を出して打ち明けてくれたのだと思います。カミングアウトすることで、少しでもその方の気持ちが軽くなったのなら私はそれを嬉しく思いました。けどその時は「養護教諭だから打ち明けやすかった」というきっかけでたまたま打ち明けてくれただけにすぎないな、と思い、これから先の時代では、「どんな相手にでも打ち明けやすい環境」が整う日がくれればいいなと思っています。普段の生活ではLGBTQの当事者の方々に思いを馳せることはあまりないのですが、今回の真田先生の講演で思い出したことや新たに学んだことをもとに、素敵なアライになれるよう心がけていきます。真田先生、ありがとうございました。